

# 実践的・体験的な学習を重視し、企業との連携を図った 「衣生活」の授業の実践例

第40回全日本中学校技術・家庭科研究大会 6分科会研究推進主任

墨田区立竪川中学校教諭 湯通堂 由加里

## 1. はじめに

2003年度からの新学習指導要領の技術・家庭科の家庭分野では、「実践的・体験的な学習を通して基礎的な知識・技術を習得し、その上で生活を工夫し、創造する」ことを今まで以上に充実していこうという趣旨の改定が行われました。なぜなら、いままでは、つくるだけで精一杯で衣食住の技能を身に付けることが、最終目的になってしまっていたのではないかという反省があるからです。

そこで、今回実践的・体験的な学習を重視した衣服の選択の授業の中で、アパレルメーカーである「ベネトンジャパン」の方々と連携させていただいて、直接社会の風をうけながら、自分たちの衣生活を工夫し、創造していくという授業を考えてみました。

## 2. 実態調査から

授業をするにあたっては、都内の小・中・高72校3,729名に技術・家庭科研究大会東京大会研究推進委員が行った実態調査を参考にしました。その結果、男女とも「着用」に最も関心があり、衣服選択の条件として、素材や着やすさなどより、形（デザイン）や色を重視していることが浮き彫りになってきました。

## 3. ねらい

大きなねらいは、中学生の時期に必要な日常着の着方や選び方、手入れや補修等の基礎的・基本的な

知識や技術を身に付け、自分らしい衣生活の営みを生み出していくことでもあります。そこに、自分を取り巻く人や社会とのかかわりをクローズアップして取り入れることで、自分たちの日常生活とかけ離れないように工夫し、一人一人が衣生活の自立を目指しました。

## 4. 授業実践にあたって

生徒たちは、まず、いろいろな色のTシャツや布などを体に当て合い、衣服が周囲の人に与える印象の違いを体験します。次に、各班に分かれて結婚式・葬式・面接・音楽会・買い物・お見舞いなどの生活の場面を考え、ロールプレイングをすることで、衣服の社会生活上の機能やそれぞれの場面にふさわしい着用の工夫を3時間かけて学習しました。

その上で、同じ生活場面の班ごとに、実際にその場面を想定しながらコーディネート授業を2時間行っていました。その際に、ゲストティーチャーとして、アパレルメーカーである「ベネトンジャパン」から3人の方々に来ていただき、アドバイスやお話をさせていただきました。また、授業で実際に着用する衣服は、アパレルメーカー各社やリサイクルセンターに提供していただきました。この実践例の授業の後は、破れたり、汚れたりした場合に、どう手入れすれば良いのか、生徒たちが自ら調べていく学習に発展します。

また、実態調査の結果から、「着用」に最も関心があったので、「着用」から授業に入り、意欲を持って、次の手入れ、補修につなげました。

5. 授業実践

【実践例】衣服の選択と手入れ

— 「コーディネート大作戦」

学習目標

- ① 衣服と社会生活のかかわりを考え、個性を生かす着用の工夫ができる。
- ② 衣服と社会生活のかかわりを考え、目的に応じて日常着を適切に選択ができる。
- ③ 衣服の計画的な活用の工夫ができる。

	分	学習内容	学習活動	教師の指導・支援	評価活動
導入	5	本時の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ってきた下衣を準備する。</li> <li>・学習内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下衣の準備を確認する。</li> <li>・本日の授業内容の確認をする。</li> <li>・ゲストティーチャーを紹介する。</li> </ul>	
展開	45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人とのかかわり</li> <li>・目的に応じた着用</li> <li>・日常着の計画的な活用</li> </ul>	<p>「コーディネート大作戦」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班ごとに場面の確認をする。</li> <li>・設定した場面上、配慮しようと思うことを確認する。</li> <li>・コーナーに移動し、自分に合う色、柄などを探し、ワークシートに書く。 (コーナーの内容)</li> <li>①色あわせ②形あわせ(えり・そでなど)③資料(参考資料・雑誌など)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で持参した下衣に合わせて、上衣をコーディネートする。</li> <li>・ゲストティーチャーや先生のアドバイスをワークシートに書く。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の中でコーディネートをする上で工夫したことや配慮したことを発表し合う。</li> <li>・印象や意見をアドバイスシートに記入し、班の中でお互いに交換しあう。</li> <li>・自分のコーディネートを振り返る。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一ヶ所に集中しないよう、注意する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習やコーナーでの活動を生かして上衣を選ぶようにアドバイスする。</li> <li>・ゲストティーチャーには、専門的な立場からアドバイスしてもらおう。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・活発に意見交換ができるように促す。</li> <li>・思いやりのある言葉でアドバイスするように助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネートの準備をワークシート(P.18に掲載)で点検する。</li> <li>・コーディネートをしている生徒を観察する。ワークシートで点検する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートで自己評価、相互評価。</li> </ul>

	分	学習内容	学習活動	教師の指導・支援	評価活動
展開	40	・個性を生かす着用	<p>「マイ・ベストセレクション」</p> <p>・ゲストティーチャーの話 を聞く。</p> <p>・ゲストティーチャーの話 を聞いて、わかったこと、 感じたことをワークシ ートに書く。</p> <p>・自分のコーディネイトを 振り返り、人とかかわ りや場面にあっているか 見直し、もう一度コー ディネイトをする。</p> <p>・コーディネイトとした衣 服を着用して、ポラロ イドカメラ等で撮り、記 録する。</p> <p>・班ごとに前に出て、各 自のコーディネイトを披 露し、自分たちの思いを 発表する。</p>	<p>・専門家としての視点で話 をしてもらう。</p> <p>(例) 「コーディネイトの様子 を見て」 「個性と流行」 「自分らしい着用」など</p> <p>・直さなければならぬと ころはないか見直すよう 助言する。</p> <p>・全員が前に出ることに よって、同じ場面でも人 によってコーディネイト が違うことに気づき、個 性を感ずってくれるよう に配慮する。</p>	<p>・ワークシート で点検する。</p> <p>・ワークシート で点検する。 自己評価す る。</p>
まとめ	10	<p>・まとめ</p> <p>・次時の確認</p>	<p>・これからの自分の着用 について考え、ワークシ ートにまとめる。</p> <p>・次時の説明 着た衣服をそのままに しておくとうなるか、考 えておく。</p>	<p>・これまでの学習を振り返 りながら、5時間分のま とめができるように配慮 する。</p>	<p>・ワークシート で点検する。</p>

評価

- ① 個性を生かす着用の工夫が考えられたか。
- ② 衣服の計画的な活用の工夫ができたか。
- ③ 衣服と社会生活のかかわりを考え、目的に応じた日常着を適切に選択できたか。

6. 生徒の様子から

生徒たちは事前に着用の目的について学習していたので、自分の考えを持ちながら、ゲストティーチャーのアドバイスを参考に自分らしいコーディネイトをしていました。また、ゲストティーチャーの言葉ひとつひとつが生徒たちには新鮮で、刺激的であ

ったらしく、興味をかきたてられ、意欲的に活動していました。また、専門的な立場からの的確なアドバイスのよって、生徒たちは多様な解決の方法の糸口をつかんだり、曖昧だった自分の考えを整理することができたようです。

〈生徒たちの感想から〉

- ・ただ黒っぽい服を着れば良いと思っていただけ、色んな着方があるんだなあと感じた。服を着るのに、相手の気持ちを考えるのも必要なんだと思う。
- ・今まで自分の好きな色しか着ていなかったけ

〈ワークシート〉

コーディネート大作戦

場面

---

下衣を選んだ理由 (人とかかわりから配慮したこと)

コーナーを活用してわかったこと (自分に合うのは)

参考図書から	色から
柄から	えりの形から

アドバイス (ゲストティーチャー、先生から)

友達からのアドバイス

アドバイスを貼ろう

自分のコーディネートはどうだろう  
(アドバイスをうけて)

2年 組 番 班 氏名

ゲストティーチャーのお話を聞いて  
わかったこと、感じたこと

コーディネートアゲイン  
(直さなければならないところはあるかな? 直してみよう)

マイ ベスト セレクション

写真を貼ろう

今まで学習してきたことを振り返って、  
今、考えていること、感じていることを書きだしてみよう  
(これからの生活にどのように生かせるだろうか)

・時、場所、場面にあったコーディネートができましたか  
(A 3つの条件 B 2つの条件 C 1つの条件) A B C

・個性を生かしたコーディネートができましたか  
(A 場面、相手の思い、自分の思い B 場面、自分の思い C 自分の思い)  
A B C

わからないこと、聞きたいことがあったら書こう。

ど、他の色にも挑戦してみたいと思う。

- ・今まではなんとなく着ていたが、まわりの人の気持ちを考えてみようと思った。ふさわしい服装ってあるんだなあと思った。
- ・洋服は自分で好きに着ていいけれど、責任を伴なう。
- ・場所に合った服、相手のことを考えて着たり、いろんなことが勉強になった。
- ・やはり、場所などを考えて衣服を着ることは、大切だと思いました。
- ・楽しかった。気に入った。これから自分の好きな色を着こなせるようにしたい。自分で鏡を見るようにするね。
- ・色が違うことによってイメージが変わるので、自分に合った服を着たいけど、服装は、その場、その場で重要な役割を持っているので、周りの人の気持ちも考えて、服を選ぼうと思いました。自分らしい服を見つけ出したいです。

## 7. 終わりに

学習指導要領改定に伴って、今回のような授業を実践してみましたが、ゲストティーチャーのことが1番の問題になりました。

まず、ゲストティーチャーと連携しながら授業を展開することが必要なので、その授業に適切なゲストティーチャーを探すことが大変でした。衣服に関係するいろいろな企業に直接電話をし、こちらの趣旨を説明しました。墨田区のファッションセンターや衣服関係の大学・専門学校にも相談に行ったりもしました。

次に、問題なことは、違った環境で活動しているもの同士が、お互いの思いを理解し合うまでに、何回も話し合いを重ね、実行・準備についても綿密な打ち合わせや連絡をしなければならないことです。

今回の授業では、班ごとまたは一人一人が、目標をめざして、ひとつひとつ問題を解決していきながら、実際に衣服等を着るという実践的・体験的な学習をすることができました。自分自身を振り返り考えるだけでなく、他の人の考えやコーディネートを見ることによって、考えを深め、実生活に役立てようという意欲が生まれたのではないかと思います。3人のプロのアドバイザーに、本時の授業の内容をよく理解していただきながら、要所要所での確なア

ドバイスをしていただくことが、生徒たちにとっては、より一層意欲を高められるよい機会になったのではないのでしょうか。また、他の分野でも、挑戦してみたいと思います。



平成15年度用

# 実教の教材

資料集，成分表，資料+成分表は，それぞれ2種類ずつご用意して，先生方のご要望にお応えします。

## 成分表

.....  
新選食品成分表

カラーグラフ五訂食品成分表

## 資料集

新刊

.....  
資料 アクティブ家庭科 (仮称)

新刊

新しい資料家庭科 (仮称)

## 資料集+成分表

新刊

.....  
ニューライブラリー家庭科 資料+成分表

ニュービジュアル家庭科 資料+成分表

新刊

.....  
ライフスタディ家庭基礎

書き込み式のワークノート

新刊

.....  
ライフスタディ家庭総合

新刊

.....  
家庭科サブノート

学習の定着を図る問題集

定価 210円 (本体 200円)  
2002年10月3日印刷  
2002年10月7日発行

© 編修・発行  実教出版株式会社 代表者 本郷 充  
発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5  
TEL. 03-3238-7777 <http://www.jikkyo.co.jp/>